

## 持っている者は更に豊かになる

### マタイ25:14~30 / 李正雨師

先週の木曜日、韓国では一年に一回行われる最大の試験がありました。大学入試センター試験と呼ばれる入学試験でした。全国の高校3年生だけでなく、試験に失敗した浪人たちもこの試験を受けました。日本の高校生はどうしているか分かりませんが、韓国の高校生は、高校3年生からではなく、高校を入学してからこの試験を準備します。勉強が得意な人であればあるほど、より頑張って準備します。どの大学に入学するかが、人生に影響を与えるからです。それで受験生の親たちは、自分の子たちに一生懸命勉強をさせるだけでなく、それぞれ自分が信じている神にも、一生懸命祈ります。仏教にもキリスト教にも、受験のために百日祈り会があるほどなので、韓国で入試が占める割合は、決して少なくありません。私はこのような入試中心の環境は、非常に良くないと思います。大学進学が適性ではなく、点数によって決まり、名門大学という肩書きによって人を評価することもあるからです。そしてこのような環境は、若者の就職活動にも影響を与えています。「名門大学イコール大企業」または「名門大学イコール高い給料」。これがみんなを受験に熱中させる理由です。だから韓国の社会も、これを問題として認識し直そうとしていますが、なかなか直されていません。本当に残念なことです。一日も早く入試の問題が改善されますように願います。

今日の福音書は、タラントンのたとえです。非常に有名なイエス様のお話です。皆様もこのたとえについてたくさん読んで、説教を通して聞かれたと思います。このたとえでは、五、二、一タラントンが与えられた僕が出てきます。そして結果としてだけ見ると、五タラントンを受けた僕は五タラントンを、二タラントンを受けた僕は二タラントンをもうけます。ところが、一タラントンを受けた僕は、何のタラントンももうけません。これによってタラントンをもうけた人は賞賛を受け、もうけなかった人は主人から追い出されます。今日の福音書をこのような観点、与えられたタラントンの商売をしてお金をもうけるべきだという観点から見ると、このたとえの意図を把握することができなかつたと思います。

今日の福音書は、先週の福音書と同じく知恵についてのことです。先週の福音書では、賢いおとめと愚かなおとめが登場します。そして賢いおとめは、婚宴の席に入りますが、愚かなおとめは入れません。これは、賢いおとめだけが未来のために油を準備したからです。「賢い者、知恵ある者は未来を準備する。」これが先週の福音書の言葉です。今日の福音書もこのような文脈の言葉です。一タラントンを預けられた僕が主人に追い出されたのは、彼が商売をしなかつたからでも、主人にとんでもない言い訳をしたからでもありません。彼が未来のために何もしなかつたので、神の国に入るために何の準備もしなかつたので、追い出されたのです。これを今週の福音書が私たちに教えてくれているのです。今日の福音書14-15節を見てみましょう。「天の国はまた次のようにたとえられる。ある人が旅行に出かけるとき、僕たちを呼んで、自分の財産を預けた。それぞれの力に応じて、一人には五タラントン、一人には二タラントン、もう一人には一タラントンを預けて旅に出かけた。」

このたとえの特徴の一つは、旅に出る人、主人は自分の僕たちをよく把握しているということです。誰に自分の財産をうまく預けるか、誰が才能があるかを知っています。それで、自分の財産を僕たちそれぞれの力に応じて分けてあげます。それが五タラントン、二タラントン、一タラントンです。差別や偏愛ではなく、僕たちの力に応じて分配したのです。そして、タラントンという単位も、小さい単位ではありません。一タラントンは、約25~30kgの重さです。18節に「一タラントンを預かつた者は、出て行って穴を掘り、主人の金を隠しておいた」と書いてありますが、ここで「主人の金」に翻訳された言葉は、ギリシャ語で「アルグイリオン(ἀργύριον)」と言います。この「アルグイリオン(ἀργύριον)」という言葉は、「銀貨」という言葉なので、僕たちは、銀貨でそれぞれ五タラントン、二タラントン、一タラントンを預けられたのです。先週の楽天市場で、銀1kgが約160,000円で取引されました。これを基準として計算してみると、銀1タラントの場合には、約4,000,000円以上になるということです。つまり、最も少なく預けられた僕も、主人に4,000,000円以上をもらったのです。今でも4,000,000円は、少ないお金ではありません。まして、当時の銀1タラントンは、より大きな価値を持っていたと思います。しかも、僕たちみんなには、才能がありました。主人は、僕たちの才能を信じ、僕たちは、その力に応じて主人の財産を預けられたのです。しかし、一タラントンを預けられた僕は、自分に大きなお金と才能があつたにもかかわらず、未来のために何の準備も

していなかったのです。

19節の言葉です。「さて、かなり日がたってから、僕たちの主人が帰って来て、彼らと清算を始めた。」先週月曜日、私は教会の信徒の方の葬式を執り行いました。その方は高齢で、がんに苦しんでいらっしやっただけですが、このように早く亡くなられるとは思いませんでした。一昨年、私の父が亡くなったときも、私は予想すらできませんでした。父も高齢で、病気でしたが、もう少し生きるだろうと思いました。しかし、父も神様に召されました。人はみんな、いつかは神様に召されます。誰も例外はありません。私も皆様も同じでしょう。みんなが神様に召され、神様と清算する日が必ず来ます。それで私たちみんなは、その日、清算する日を準備しなければなりません。賢いおとめが油を準備したように、五タラント、二タラントを預けられた僕が商売をしたように、清算の日のために準備をしなければならないのです。これがイエス様が言われる知恵なのです。

五タラントを預けられた僕が主人に報告します。20節の言葉です。「御主人様、五タラントお預けになりましたが、御覧ください。ほかに五タラントもうけました。」二タラントを預けられた僕も主人に同じ報告をします。22節の言葉です。「御主人様、二タラントお預けになりましたが、御覧ください。ほかに二タラントもうけました。」五タラントを預けられた僕は五タラントを、二タラントを預けられた僕は、二タラントをもうけました。預けられた財産の何倍かをもうけることもなく、何倍をもうけなさいという要求を受けたこともありません。それぞれ自分が預けられた分のタラントをもうけたのです。私は、これが神の国が清算する方法だと思います。神の国は、私たちに何倍も結果を求めたり、無理やりに仕事をさせたりはしません。名門大に入学するために、大企業に入社するために、他の人より良い給料を受けるために努力するように、神の国のために努力しなさいともしません。預けられた財産ほどだけをもうけたら良いのです。一タラントを預けられたら一タラントを、一デナリオンを預けられたら一デナリオンをもうけたら良いのです。その上、福音書は、主人が僕の力に応じて自分の財産を預けたと語っています。私たちのすべてをご存知である神様は、私たちが神様と清算できるほどの天の財産を私たちに預けてくださいます。ですから、清算の日を準備する人は、誰でも預けられた分ほどをもうけることができるのです。

主は僕の報告にこう言います。「忠実な良い僕だ。よくやった。お前は少しのものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ(21, 23節)。」主人は、彼らがいくらもうけたかは、気にしません。彼らが忠実だったということを重視します。主人に預けられたタラントほどの財産で清算の日を準備したということ。これが僕たちが賞賛された理由です。しかし、一タラントを預けられた人は、そうではありませんでした。彼は未来を準備しておらず、準備していない理由を自分ではなく、主人の性格のせいにして。そこで主人は、一タラントを預けられた僕にこう言います。26～27節の言葉です。「怠け者の悪い僕だ。わたしが蒔かない所から刈り取り、散らさない所からかき集めることを知っていたのか。それなら、わたしの金を銀行に入れておくべきであった。そうしておけば、帰って来たとき、利息付きで返してもらえたのに。」

申命記23章19～20節によると、神様はユダヤ人たちに同族の間では、利息を受け取らないように命じられました。でも、利息を受け取れない代わりに、神様が祝福を与えて下さると約束なさいました。しかし、外国人には、金に利息を付けて貸すことができました。今日の福音書で主人が言った利息は、この外国人への利息だったと思います。これは、むしろ外国人に金貸し業をしても、未来を準備した方が良かったのということだと思います。主人は、このようなことさえしなかった僕の一タラントを取り上げることにします。そして、これを十タラントを持っている僕に与えなさいと命じます。未来を準備した人には、もっと多くのものが与えられますが、そうでない人には、与えられたものも奪われることになるのです。

ですから皆様は、皆様に預けられたタラントで神様と清算する日を準備してください。皆様に与えられた信仰を軽んじてはいけません。信仰をよく保ち、その信仰によって実を結んでください。その信仰の実が皆様を神の国に導いてくれるのです。そして未来を、清算の日をあまり心配しないでください。神様は皆様の力に応じてタラント、天の財産を預けてくださいました。だから、皆様は神の国を準備することだけで、神様と清算することができるのです。未来を準備している者が知恵ある者です。これを忘れない皆様になりますように。清算ができる持っている人になり、さらに豊かになりますように、主の御名によって祈ります。